

観察した鳥類チェックリスト (分類表記は鳥類目録第8版に従う)

★カモ目	★ツル目	★ハヤブサ目	・ヒタキ科
・カモ科	☐ クイナ	・ハヤブサ科	☐ ジョウビタキ
☐ オカヨシガモ	☐ ヒクイナ	☐ チョウゲンボウ	・スズメ科
☐ ヨシガモ	☐ バン	☐ ハヤブサ	☐ スズメ
☐ ヒドリガモ	☐ オオバン	★スズメ目	・セキレイ科
☐ マガモ	★チドリ目	・モズ科	☐ キセキレイ
☐ カルガモ	・チドリ科	☐ モズ	☐ ハクセキレイ
☐ ハシビロガモ	☐ タゲリ	・カラス科	☐ セグロセキレイ
☐ オナガガモ	☐ ムナグロ	☐ カケス	☐ タヒバリ
☐ コガモ	☐ コチドリ	☐ オナガ	・アトリ科
☐ ホシハジロ	・セイタカシギ科	☐ ハシボソガラス	☐ カワラヒワ
☐ キンクロハジロ	☐ セイタカシギ	☐ ハシブトガラス	☐ アトリ
☐ ミコアイサ	・シギ科	・シジュウカラ科	☐ ウソ
★キジ目	☐ タシギ	☐ ヤマガラ	☐ シメ
・キジ科	☐ イソシギ	☐ シジュウカラ	☐ コイカル
☐ キジ	・タマシギ科	・ヒバリ科	・ホオジロ科
★カイツブリ目	☐ タマシギ	☐ ヒバリ	☐ ホオジロ
・カイツブリ科	・カモメ科	ツバメ科	☐ カシラダカ
☐ カイツブリ	☐ ユリカモメ	☐ ツバメ	☐ アオジ
☐ カンムリカイツブリ	☐ セグロカモメ	・ヒヨドリ科	☐ オオジュリン
☐ ミミカイツブリ	☐ オオセグロカモメ	☐ ヒヨドリ	☐
☐ ハジロカイツブリ	★タカ目	・ウグイス科	☐
★ハト目	・ミサゴ科	☐ ウグイス	☐
・ハト科	☐ ミサゴ	・エナガ科	☐
☐ キジバト	・タカ科	☐ エナガ	☐
★カツオドリ目	☐ トビ	・メジロ科	(外来種や家禽)
☐ カワウ	☐ チュウヒ	☐ メジロ	☐ コブハクチョウ
★ペリカン目	☐ ツミ	・ヨシキリ科	☐ バリケン
・サギ科	☐ ハイタカ	☐ オオヨシキリ	☐ ガチョウ
☐ ヨシゴイ	☐ オオタカ	・セッカ科	☐ アヒル
☐ ゴイサギ	☐ ノスリ	☐ セッカ	☐ ドバト
☐ アマサギ	★ブッポウソウ目	・ムクドリ科	
☐ アオサギ	・カワセミ科	☐ ムクドリ	
☐ ダイサギ	☐ カワセミ	・ツグミ科	
☐ チュウサギ	★キツツキ目	☐ シロハラ	
☐ コサギ	・キツツキ科	☐ アカハラ	
	☐ コゲラ	☐ ツグミ	

このパンフレット持参で
てがたん参加者の方は
当日、博物館入館無料です

【7月のテーマ】

へび(み)つけ！

案内人：脇水徳之（鳥の博物館 学芸員）



▲ 手賀沼周辺でよく見られるへびの一種であるアオダイショウ

今月のテーマはへびについてです。

今年の干支であるへび(巳)は、手足のない独特な体付きをしています。へびは噛みつくイメージから危険な存在と思われがちですが、その生態を知るととても魅力的な生き物に感じられます。

今回のてがたんでは、日本に生息するへびの種類と、それぞれのへびが好む生息環境や食べ物、他の爬虫類との体のつくりの違いを紹介します。

2025年7月12日(土)

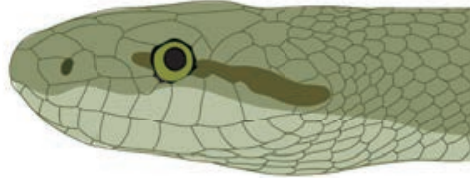
車や自転車に注意しましょう。水田や私有地ではマナーを守って観察しましょう。

「日本に生息する主なヘビ」

沖縄や奄美諸島に生息するハブやアカマタを除いて、日本の本土には、8種類のヘビが生息しています。マムシやヤマカガシは上あごの歯に毒を持ちます。

アオダイショウ（ナミヘビ科）

全長200cm程度で国内最大。農地や家の近くに生息。幼蛇はマムシに似た模様をする。



ジムグリ（ナミヘビ科）

全長100cm程度。森林や水辺に生息。気温が低い時間に活動。主にネズミを食べる。



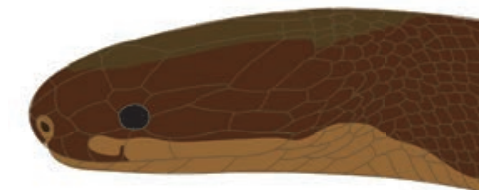
ヒバカリ（ナミヘビ科）

全長65cm程度。平地の森林や水辺に生息。薄明薄暮性でカエルやミミズを食べる。



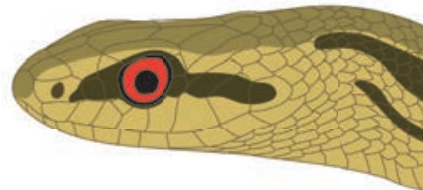
タカチホヘビ（タカチホヘビ科）

全長60cm程度。鱗に虹色の光沢をもつ。森林に生息し夜行性。主にミミズを食べる。



シマヘビ（ナミヘビ科）

全長160cm程度。耕地や河川敷に生息。小動物やカエルを食べる。尻尾を振って威嚇する。



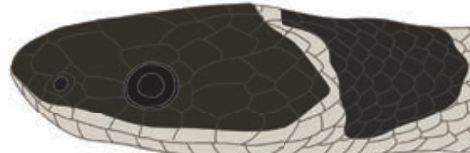
ヤマカガシ（ナミヘビ科） 有毒

全長120cm程度。山地や平地の水辺に生息。捕食したカエルが持つ毒を貯めて利用する。



シロマダラ（ナミヘビ科）

全長70cm程度。森林に生息し夜行性。小型爬虫類を食べる。



ニホンマムシ（クサリヘビ科） 有毒

全長80cm程度。山地や平地の茂みに生息。擬態能力が高く、踏んで噛まれる事例が多い。

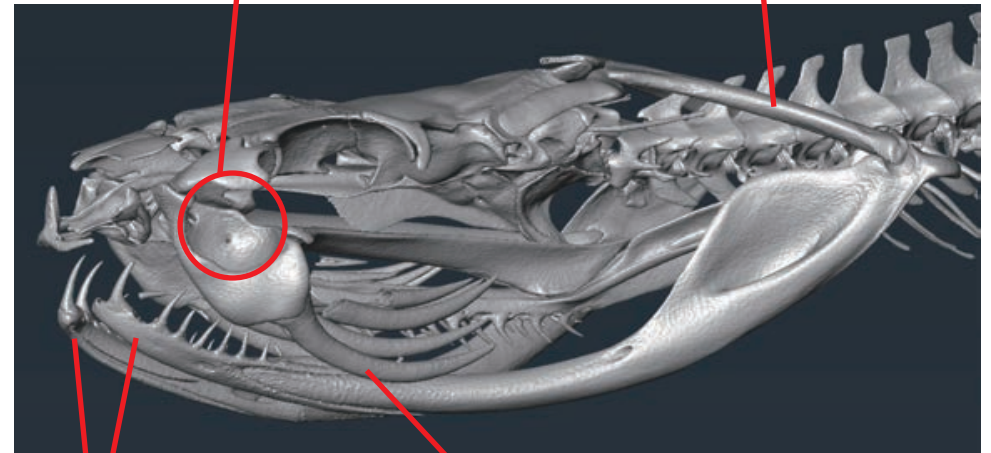


「もっと知りたいヘビの体」

ヘビの頭骨は、他の爬虫類より骨が多く、可動性が高い構造をしています。ヘビの下あごは左右に分かれていて、あごの先端は柔らかいじん帯で繋がっているため、大きく口を開けられ、見かけよりも大きな獲物を丸飲みができます。あごの前に大きな牙を持つハブの仲間は、牙のある骨を回転させて上手く口の中に収納しています。

熱を感じるピット器官が収まる場所

方形骨(上あごと下あごを繋ぐ骨)



下あごの骨は左右で分かれる

毒のある牙

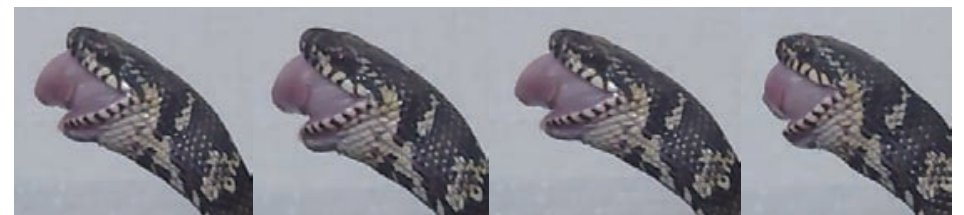
▲ ハブの頭骨の3Dモデル

「ヘビのあごの動かし方」

ヘビは手足を持ちませんが、左右の下あごを交互に動かしてエサをたぐり寄せて飲み込みます。気道は下あごの前方にあり、飲み込む途中も呼吸できます。



▲ 左の下あごを前に動かして、エサをたぐり寄せる様子



▲ 上の画像の後に、右の下あごを動かして、エサの前方をつかむ様子